

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣工業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年2月13日(木) 14:05～16:00
- 3 開催場所 協議会会場 大垣工業高等学校 本館1階 会議室
課題研究発表会参観 体育館2階 アリーナ
- 4 参加者
- | | | |
|-----|--------|---|
| 会長 | 小塚 生開 | 共立紡機株式会社 代表取締役 (欠席) |
| 副会長 | 篠田 和也 | 育友会会長 |
| 委員 | 松原 学士 | イビデン株式会社執行役員 経営企画本部人事部
人事企画グループ 採用担当マネージャー |
| | 竹中 拓也 | 太平洋工業株式会社
コーポレート企画センター人事部 主査 (欠席) |
| | 長瀬 ちえ子 | 大垣夢ある女性の会 事務部長 |
| | 片桐 実智 | 地域代表 |
| | 松崎 美枝子 | 育友会3年学年代表 |
| | 吉田 秀慈 | 大垣市立西中学校 校長 (欠席) |
| | 中野 たみ子 | NPOひまわりの花 理事長 |
| 学校側 | 桐山 明宏 | 校長 |
| | 藤原 竹志 | 副校長 |
| | 樋口 高広 | 教頭 |
| | 安部 博貴 | 教頭 |
| | 中嶋 菊太郎 | 全日制 教務主任 |
| | 服部 明広 | 全日制 進路指導主事 |
| | 木村 章太 | 全日制 生徒指導主事 |
| | 田中 正一 | 全日制 工業部長 |
- 5 会議の概要(協議事項)
- (1) 令和6年度課題研究発表会および工業部の取組みについて
下記テーマの発表を参観
- | | |
|------------|------------------------------|
| ① 機械工学科 | からくり改善への取組み
バイクのレストア、作品製作 |
| ② 電子機械工学科 | 自動運転機能付き車椅子 |
| ③ 土木・建築工学科 | コンクリートの研究 ～コンクリート甲子園への挑戦～ |
| ④ 化学技術工学科 | 化粧品研究 ～身近で作れる美容品～ |
| ⑤ 電気工学科 | 電気カートの製作 |
| ⑥ 電子工学科 | ぎふハイスクールサット(GHS)報告 |
| ⑦ 情報技術工学科 | ネットワーク構築とWebコンテスト |

(2) スクールミッションの策定について（全日制・定時制）

最終案を提示し、どのように修正したかを説明。

⇒ 全日制分、定時制分ともに、全委員より承認を得る。

(3) 全日制教務部、進路指導部、生徒指導部、工業部から、今年度の成果と反省、次年度に向けての改善について説明。

定時制全般についての今年度の成果と反省、次年度に向けての改善について説明。

意見 1 : 毎年 9 月に就職試験を受けにくる受験生と接しているが、欠席日数がコロナ禍を境に増加している。また、それとともに筆記試験での平均点も年々低下している状況にある。この傾向は大垣工業高校に限る事ではない。欠席日数は採用する側から見て躊躇する要因のため、増えてからの指導ではなく、1 年次から欠席に対する指導を望む。

意見 2 : 部活をがんばっている生徒は、辛い時などに仲間との励ましあいなどがあり、困難を乗り越えられる良い面があるので頑張らせたい。

意見 3 : 欠席数は、3 年生になると就職など進路を意識して減ってくる傾向にある。特に 1・2 年生に働きかけられると良い。

⇒ 1 年生から欠席が増えないような意識づくりを働きかける。

仲間作りを意識して、学校での活動で働きかけや、きっかけ作りをする。

意見 4 : 小中学校でも不登校生徒が増え、登校が辛い場合には医者が休むことを勧めるケースも見られるようになった。正しい生活リズムや生活態度を身に付けることが大事であり、保護者と協力して連携していく必要がある。

意見 5 : 特性のある子供は、ゲームなどに依存する傾向や被害者意識を過大に持つ場合があるため、正しく意図が伝わらずいじめられたと感じてしまうケースがある。学校として、誰に伝えているかを明確にして伝えるなど、意識して対応すると良い。

意見 6 : 県内就職率 8 割という値は、今年度に限っての特徴的なものか。また、地域企業と連携して授業に参加していただいていることが生徒の興味を高めることにつながり増加しているのか。

⇒ 学校に派遣された方からの指導、本校の卒業生からの話などを通し、その企業に就職を希望する生徒が増加している傾向がみられる。県内就職の割合は今までも高かったが、現在の企業連携でさらに増加している。

⇒ 地域の担い手育成事業を県から指定を受けて取り組んでいる。本校は県立高校のため、以前から地元企業での就職者を増やすように意識して進路指導を行っている。他県に進学する生徒に対しても、就職する時には岐阜県に戻ってくる事を選択肢に考えてもらえるような意識付けをしている。

意見 7 : 課題研究の取組み状況はとても良く、外部に活動状況などを発信できると良い。それぞれの研究が SDG s と関連していることも発表され、何のために研究を進めているのかといった視点が意識されていた。プライバシーなどの問題もあるが、可能な範囲で外部に発信できると良い。

意見 8 : それぞれの子供たちがこのような素晴らしい取組みを実践していることが保護者に十分伝わっていないと思われる。より多くの方に知ってもらえると良い。

意見 9 : 学科の枠を超え、他学科の取組みを知ることができる発表会であり有意義である。

意見 10 : 自身の子供が発表していない場合であっても、多くの方に参観を勧めたい素晴らしい研究発表会であった。

意見 11 : 1・2 年生について皆静かに聞く姿勢ができており、指導が行き届いていた。

⇒ 技術的な面やシステムの面、個人情報保護の面などをふまえ、発信については校内で今後検討する。

- 意見 1 2 : 工業高校のことが一般の方にあまり理解されていない。工業を目指す生徒、中学校の先生や保護者などに、今後も工業高校の取り組みや魅力を伝えていけると良い。
- 意見 1 3 : 人前で緊張するのは当然であるが、その中で堂々と発表がされており、次の自信につながる内容となっていた。
- 意見 1 4 : 定時制の授業参観をした際に先生方が生徒の性格や行動状況を把握して対応にあたっていることを知った。生徒ひとりひとりの様子や変化を見逃さない丁寧な対応ができていると評価できる。
- 意見 1 5 : 学校の自己評価について、やるべきことをしっかり行い評価できるところには、胸を張ってA評価をつけるべきである。自己評価を控えめに行いBとする傾向があるが、やれていることにはAの評価をし、職員が胸を張れるようにする。その評価を見せることで生徒が更に育つことにつながる。多少やり切れてない点があっても、頑張りの状況次第ではAの評価をつけても問題ない。
⇒ 評価の内容については、検証し訂正を行い報告など行う。

(4) 令和7年の学校運営協議会の委員選定について

6 会議のまとめ

- ・各分掌が自己評価をつけた内容を集約しているため、Bという評価が集まっている。
- ・各分掌で成果と課題を分析し、課題の面から次年度に向けての目標設定となり重点項目ととらえることにつながっている。次年度については、多くのA評価がつけられるようにしたい。
- ・課題研究発表については、各クラス6グループ程度に分かれ活動している。課題研究の取り組みで「ワクワクした」と感じる生徒が、全体の中でどれだけ増えるかが課題であるととらえている。
- ・課題研究のテーマ決めなど初期段階がとても重要であり、教員が力を身に付けている必要がある。教員は、最初は手厚く指導し、徐々に手を放していき、最終的には生徒自身で研究を進めて完了させていく、そのような指導スキルが教員には求められている。
- ・情報発信については、工業部で検討し、発信内容や発信方法を検討する。
- ・高校入試において中学校での欠席数を把握できなくなったが、これは不登校に対して寛容な世の中を目指す流れのためである。しかしその一方で、就職者を出していく工業高校にとっては欠席を減らすことが求められており、やるべきことはしっかりやれる指導を進める。
- ・保護者を仲間に巻き込むことで、より良い指導に近づける。
- ・他の生徒に発せられた言葉を勘違いし、自分に言われたと感じてしまう生徒がいるが、このような生徒に対しても丁寧に接することは継続の課題である。この課題をクリアしていき子供たちの幸せにつなげていく。